



第15回JUAAビジネス・スクール シンポジウム

1) 概要

開催日時 : 2023 (令和5) 年9月5日 (火) 13:30~15:40

開催方法 : Zoom

参加者数 : 52名

テーマ : 「経営系専門職大学院における研究マネジメントのあり方とは——海外の事例を参考に——」

登壇者 : 藤村 博之氏 (大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会委員長、元法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科教授)
佐藤 智恵氏 (B I P R O G Y (旧・日本ユニシス) 株式会社 取締役)
高田 仁氏 (大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会副委員長、九州大学経済学府 産業マネジメント専攻 教授)
山村 能郎氏 (明治大学専門職大学院グローバルビジネス研究科 研究科長)
横山 研治氏 (大学基準協会経営系専門職大学院認証評価委員会副委員長、名古屋商科大学ビジネススクール研究科長 (涉外))

2) 内容

<講演>

横山 研治氏

名古屋商科大学ビジネススクール研究科長 (涉外) を務める横山研治氏より、開会挨拶ののち、「教員の研究マネジメントのあり方——米国、ヨーロッパの事例を参考に——」と題した講演を行いました。講演では、AMBA (the Association of MBAs)、EFMD ((European Foundation for Management Development)、AACSB ((The Association to Advance Collegiate Schools of Business) それぞれにおいて求められている教員資格等について説明があったのち、研究マネジメントの方法やガバナンス体制に関する問題提起がなされました。

教員の研究マネジメントのあり方
—米国、ヨーロッパの事例を参考に—

横山研治、博士 (経営学)
名古屋商科大学ビジネススクール研究科長 (涉外)
JUAA経営系専門職大学院認証評価委員会副委員長

NUCB Undergraduate School | NUCB BUSINESS SCHOOL
AACSB ACCREDITED | EQUIS ACCREDITED | AMBA ACCREDITED



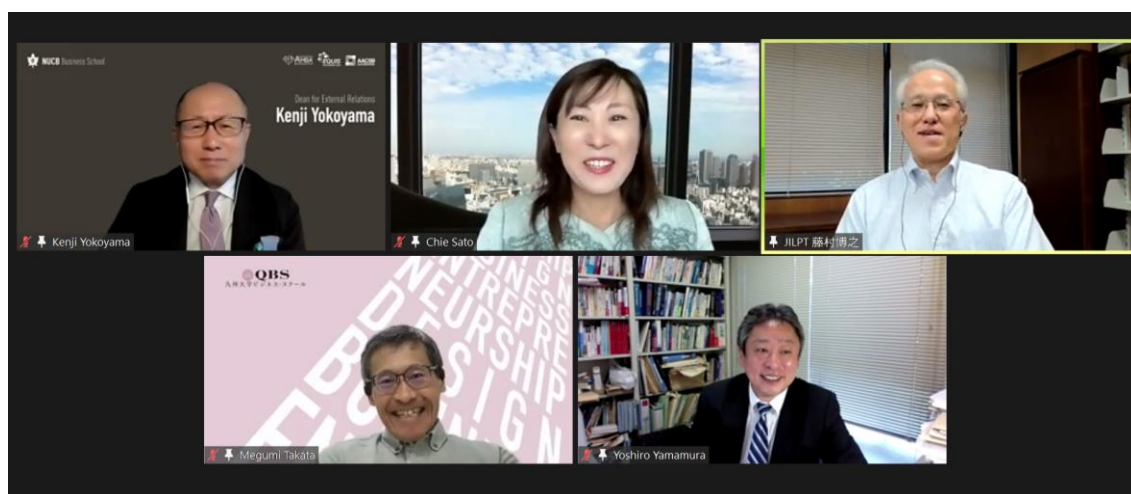
<パネルディスカッション>

コーディネーター：藤村 博之氏

パネリスト：佐藤 智恵氏、高田 仁氏、山村 能郎氏、横山 研治氏

パネルディスカッションでは、主に以下のテーマで意見交換をしました。

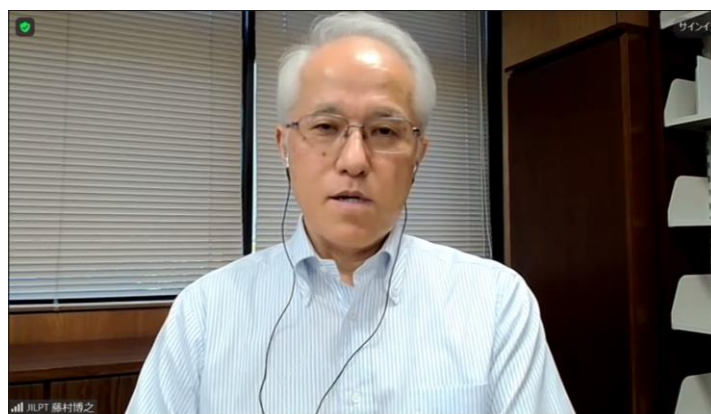
- (1) 実務家教員に求められる資質、能力、役割
- (2) 実務家教員にとって研究活動はどのような意味があるのか。
- (3) 研究者教員と実務家教員の協業のあり方



<閉会挨拶>

藤村 博之氏

パネルディスカッションでの意見交換を踏まえて、藤村博之氏から、「ビジネススクールというのは、考えて議論する場であり、変化対応力を高めていく場である。その場で教育を行う教員自身も、どのように自分自身の能力を高めていくか、試行錯誤の場である」とのお話がありました。そして、特に実務家教員においては、実務的な活動・社会的な活動も研究活動として捉えることができ、各大学院が固有の目的に即して研究のあり方を定義していくことが重要であることが述べられました。



3) シンポジウムを振り返って

今回のシンポジウムは、昨年度に開催した第14回 JUA ビジネス・スクールシンポジウム「経営系専門職大学院における教員・教員組織のあり方とは」の内容を踏まえつつ、教員の研究マネジメントに焦点をあてた内容となりました。

横山氏の講演では、海外の評価機関では、博士号を取得しているか否かが、ビジネススクールの教員の適格性を判断する重要な項目の1つであるとの説明や、いわゆる研究者教員と実務家教員いずれにおいても、広い意味での研究活動を行わなければならない、研究活動というのは、英語によるレビュー付き論文であるといった説明がなされました。現状、日本のビジネススクールがこれらの内容を全て満たすことは難しい面もある一方で、これらの要件を満たす組織となるべく取り組んでいる大学も存在することが述べられました。

その後のパネルディスカッションでは、特に実務家教員に焦点をあて、日本国内そして海外のビジネススクールの教員が行っている研究活動の内容が具体的に紹介されたほか、新たな価値を創造するためには、異なる立場の教員が協業することが重要であり、研究者教員と共同研究を行うというのが、実務家教員の研究活動として有益な可能性がある、1研究科だけでなく、研究科の枠をこえて協業できれば、さらに可能性は広がる、などの意見が示されました。また、実務家・研究者に限らず、必要なのは「人柄」「人間性」であり、経験豊富な学生もいることから、学生に学ぶことも大切であるとの意見も示されました。

今回も、参加者から高い満足度を得ることができました。今後も各経営系専門職大学院の質向上に資するイベントを開催できるよう努めてまいります。

(大学基準協会 事務局)

以 上